

あけまして おめでとうございます



噴 対 協
ニ ュ ー ス

No.10 2019年1月発行

旧年中は、リゾート噴火対策協議会の活動へのあたたかいご支援とご協力をいただきましてありがとうございました。

リゾート噴対協の活動は今年で3年目を迎えます。昨年度は1年間をかけて企画・制作した「避難ハンドブック」が出来上がり、リゾート住民の方を対象に内容説明会を開催し、約130世帯の方々にお配りして噴火防災の取組みを積極的にすすめていただくように呼びかけてきました。

まだお配りしていない方には今後、戸別訪問をしてお配りしていくことにしています。

昨年も大規模な風水害・地震災害など甚大な被害をもたらす自然災害が各地で発生しています。駒ヶ岳の噴火についても私たちは大いに警戒が必要だと考えています。

みなさんの噴火防災への取組みを一層強めていただく為に今年も噴対協はさらに頑張っていく決意です。

昨年11月に町主催の噴火防災訓練が行われました

■ 今回の訓練は

- 3日間の設定のうちどこかで開催するという事で、11月15日に駒ヶ岳が小噴火(噴火警戒レベル3)から噴火(噴火警戒レベル5)が発生したと想定して防災無線で警報が流されました。
- リゾート地区では防災無線の『避難準備情報』で、町内会の連絡網や美駒平地区の噴火避難緊急連絡網を通して避難を呼びかけ、総合体育館に避難しました。

■ 実際の避難訓練の結果は

- いつ防災無線から情報が流れてくるか分からない訓練で、当日はリゾート地区からは82名の方が参加しました。
- また、いつ開始されるか不明の中での連絡網や緊急連絡網を使っでの連絡では、連絡した世帯の2割から5割の方にしか情報が伝えられませんでした。
- 一次避難所の総合体育館では、あらかじめ役場が受付の設営をする等してあった為に大きな混乱はありませんでした。
- 受付を済ませた後、滞在場所の設営をみんなで取組み、避難所は避難者自身が運営するということを参加者が協力しあい活動する中で体験しました。

■ 今後の課題は

- 緊急連絡網など、住民に避難情報を早く、正確伝える仕組みを整備すること。
- 避難所運営をスムーズに行えるようにするため、避難所で必要になるさまざまな備品や用具をあらかじめ体育館に準備しておくこと。
- 避難所でのスムーズな自主運営を可能とするための体制をどのように作っていくのか、等々。

今回の避難訓練での経験を生かし噴対協は、町内会や行政とも協調しながら噴火防災活動に引き続き努力していきます。

裏面に続く →